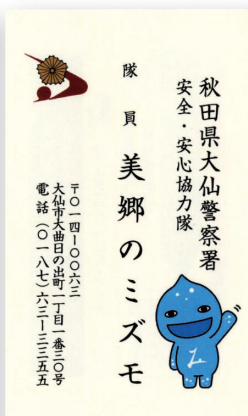




美郷町×JAL交流事業第2弾

地域の人とつながる美郷体験

美郷町とJALによる交流事業が9月25日から27日にかけて行われました。5月に引き続き、第2弾である今回は農作業体験に加え「美郷の水から食までの流れを知る」ことを目的に、七滝山登山や新米を使用したおにぎりピュッフェを行いました。参加したJAL社員の方々からは「美郷について体験するだけでなく、町民の方々と話すことで楽しく交流できた」、「リラックス、リフレッシュができて美郷ならではの魅力を感じた」と声が上がり、「社員と町民=人と人」とがにつながる機会のほか、町の観光や魅力について再認識した体験となりました。



みんなの安全・安心を守ります!

美郷のミズモが安全・安心協力隊員に委嘱されました

8月20日、美郷のミズモと大仙市のまるびちゃんが大仙警察署安全・安心協力隊員に委嘱されました。今後は大仙警察署と連携し、協力隊員として防犯キャンペーンなどの活動に取り組みます。

かわいいうさぎに大興奮

畑屋うさぎふれあい体験

町内認定こども園の園児による畑屋うさぎのふれあい体験が、9月に各園で行われました。飼育者の高橋清一さん(外川原)はうさぎを紹介しながら「生まれたときには親指ほどのうさぎが、こんなに大きくなる」と話すと、園児たちは驚きの声をあげていました。ふれあい体験が始まると、園児たちはうさぎのもとに集まり真っ白で柔らかな毛並みをなでながら「やわらかい」「あったかい」と口にして、すぐにうさぎの可愛らしさに夢中になっている様子でした。



■仙南すこやか園



■千畑なかよし園



■六郷わくわく園

MISATOPICS

町の話題



ご長寿おめでとうございます

鎌田ヤスさんが満100歳に

9月7日に満100歳の誕生日を迎えられた鎌田ヤスさん(本田)のもとを松田町長が訪れ、長寿祝い金を贈呈しました。贈呈時、ご家族から花束を受け取りとても喜ばれていました。

鎌田さんは、横手市八丁に7人きょうだいの長女として生まれ、21歳で結婚、子ども2人、孫4人、ひ孫6人に恵まれました。

長寿の秘訣は、家族との生活の中でコミュニケーションなどを取り、刺激を受けながら過ごすこと、1日3食好き嫌いをせずにバランスの良い食事をとることだそうです。これからもお身体を大切に、元気で過ごしてください。



▲特別展のオープニングであいさつする
松田町長

食欲関係では今年も新米、おいしいです。白米だけでもおいしいこの時期、ついつい食べ過ぎてしまいます。そして、涼しさも相まってか、読書も進みます。いわゆる「はかがいきます」。スポーツは想

その視察途中の出来事ですが、山の方から「ケーンケーン」と鳴き声が聞こえました。私は聞いたことがない鳴き声でしたので、説明の方に伺ったところ、鹿の鳴き声とのこと。ふと百人一首の歌人猿丸太夫の「奥山にもみじ

10月上旬、秋田県町村会行政視察で京都府伊根町を訪問してきました。「あるもの」の活用視察です。伊根町の漁家は漁船を格納する「舟屋」を有していますが、その活用状況を参考にするためでした。無いものねだりではなく有るもの探しが大切で、その活用アイデアがさらに大切という点、改めて認識して帰ってまいりました。

踏みわけ 鳴く鹿の 声きく時ぞ 秋は悲しき」という歌を思い起こしました。

その秋ですが、かつては稲刈りが終わり、稲わらの香りが漂う頃から秋を感じたものですが、最近はその香りが通用しません。温暖化の影響で稲刈り後も夏のように暑いからです。今日的な感覚では、10月上旬から11月中旬が「美郷の秋」ではないかと私は思います。ただし、秋の本質については時期がずれても短くなくとも、変わっておりません。私の思う秋の本質、それは「食欲の秋」であり、「読書の秋」、「スポーツの秋」、「行楽の秋」、そして「芸術の秋」です。

COLUMN
WINDS

コラム

風

秋を堪能

美郷町長 松田知己

像の世界ですが、涼しさによって夏よりも取り組みやすくなるのではないのでしょうか。行楽については紅葉の美しさなど、動機には事欠きません。そして芸術。景色や風、香りの変化などによって五感がフル稼働するのでしょうか、芸術に触れた際に何かを感じやすくなるのは、私だけではないように思います。

その芸術の秋、町では友好都市提携20周年の東京都大田区、防災協定締結10周年の栃木県那珂川町からの協力を得て、10月17日から11月16日までの期間、「浮世絵版画展 広重・月耕・巴水・松亭が描く時代の景色」展を学友館にて開催しております。みなさまにはぜひともこの貴重な機会、会場に足を運んでいただき、芸術の秋を身近に実感するとともに、堪能していただきたいと思っています。

しかし、そういう楽しみの多い秋ですが、熊の出没になかなか心穏やかに過ごせません。熊には熊の事情があるでしょうが、どうか里には出て来ないよう、話しかけたいところです。スマートフォンに「熊語」の翻訳機能が付いていないのが残念です。